

見樹院ニュース

O T E R A NEWS

第50号 2009年6月8日発行

浄土宗 見樹院
住職 大河内秀人

〒112-0002

東京都文京区小石川3-4-14

TEL 03 (3812) 3711

FAX 03 (3815) 7951

Eメール: kenjuin@nam-mind.jp

Http://www.nam-mind.jp

現本堂 最後の施餓鬼会

宗祖法然上人800年大遠忌記念事業にふさわしく

極楽をめざす「コミュニティ」の創造

いよいよ新しい見樹院の建築が始まります。現本堂は、戦後のやつと復興しつつあった昭和30年代から、当時の総代さんをはじめとする檀家のみなさんのたいへんな御苦労で、長い年月をかけて出来上がったものだけに、いざ取り壊すことが決まると、寂しさと同時に、これからの事業・運営への責任を改めて感じていきます。また、二〇〇一年から5年間にわたって

募った「建築基金」には、檀信徒各位の温かいご協力をいただきました。

今回の建設が実現するのは、まさに阿弥陀様のはからいといしか言えないような《縁》によるものです。そしてその出会いは、《願い》によって結ばれました。

人々の精神まで蝕む、世界的な暴力や環境破壊。気が付いたら深く進行していた命と未来への不安

それらに対して、命の源泉からリフォームしていかうと地道な実践を積み重ねてきた人々の願いが、お互いに引き合わされたものと実感しています。

その根本にあるのは、法然上人の万人救済の意志であり、至上の幸福が実現する極楽浄土へ導く阿弥陀如来の本願に通じます。

この事業は、南側宅地部分を中心に定期借地権を設定する等価交換によって、寺院部分の建設資金を賄うわけですが、十四戸の入居者（建設組合員）と共にその願いを共有して、見樹院の未来を築くコミュニティを創造していきたいと思えます。

寺は人々の祖先と子孫、過去と未来を結ぶ「場」です。その接点にある「いま」の私たちが、どのような暮らしをし、どのような社会を築いているか。過去をどのように受け止め、どこへ向かって行こうとしているのか。

そのひとつの答えを、宗祖法然上人八百年大遠忌の折に、見樹院が社会に向けて体現することができるとも、意義ある巡りあわせと受け止めています。

おせがき 施餓鬼会のご案内

見樹会総会のお知らせ

現在の本堂での最後のお施餓鬼となります。建設計画及び建設期間中の対応に関するご説明とお願い、今後の運営方法についての協議事項もありますので、ぜひともご出席ください。

6月28日(日)

- 11時～ 受付
- 11時半～ 建設事業について
 - ・建設組合設立報告
 - ・施工業者等紹介
 - ・建築期間中の対応
- 12時半～ 施餓鬼法要
見樹会総会
会食
(2時半終了予定)

※折り返し、出欠(人数)、塔婆供養のご連絡をご返信下さい。
お塔婆は1本3000円で承っております。

お寺がつくる新しい都市型エコビレッジ 「スクワール見樹院」 建築事業について

住職 大河内秀人

建設組合が設立されました

この事業は、見樹院と願いを共有する方々と一緒に「建設組合」を設立し、コーポラティブ方式でつくりあげていきます。これまで総代・世話人会を重ね、エコで健康で長寿命な住宅建設を通して持続可能な未来をめざす、「天然住宅」と、その実績ある設計事務所「アンビエックス」とともに練り上げたプランに、「都市住宅とまちづくり研究会」の助力を得て、この事業の参加者（入居者）を募りました。

世界的な不況の中、とくに住宅市場が停滞、値崩れする状況で、実際、希望していた方の数名が、所有財産の売却ができないなど資金的理由で断念されたこともありましたが、ほとんど外部への宣伝をすることなく全ての部屋が埋まり、予定通り5

月中に建設組合が設立され、着工に向け本格的に始動しました。詳細はお施餓鬼の折に、ご紹介を含め詳しくお話ししますが、大まかな概要と、今後のスケジュール、そして皆様方へのお願いについてお伝えします。

建物（境内地）全体の概要

これまでの境内地と南側の宅地（貸地）を併せて、施設としては寺院と共同住宅を一体として建設します。

現在の玄関辺りを境目に、現在の本堂の位置に、鉄筋コンクリート4階建の寺院部分ができます。新しい本堂は2階になり、広さは現在の本堂とほぼ同じくらいで、本尊まわりを含めた内陣は3階まで吹き抜けとなり、その周囲3階部分の一部が本堂2階席となります。1階は玄関ホールと事務室、庫裏。3階は

法衣室と、控室としても利用できる居室。4階には現在の本堂横と同じくらい和室と屋上庭園ができます。

寺の玄関は墓地寄りの側になり、外から直接入れるようになりますが、建物（スクワール見樹院）のエントランスは現在の玄関あたりで、エレベーター（1基）は住宅と共同です。

そのエレベーターホールを挟んで南側住宅部分の1階西側の大部屋は寺の集会室となり、法

要後のお食事などにご利用いただけます。また、その1階東側は、オーガニック（無農薬有機栽培）の食材を使った、和風のコミュニティ・カフェ・レストランになる予定です。お墓参りの折にでもお気軽にご利用いただきたいとのことです。

その2階から5階までと、西側の別棟を合わせて14戸の住宅ができ、新たに「見樹院コミュニティ」に加わります。

今後の主なスケジュール

2009年

6月28日 施餓鬼会・見樹会総会
9月 秋彼岸
9月27日 本尊遷座法要
10月 本尊遷座
10月初旬 解体工事開始
11月 地鎮式
建築工事着工

2010年

5月 上棟式・見学会
6月27日 施餓鬼会
11月 竣工・建物引渡し
12月 本尊復帰開眼法要

2011年

3月 法然上人800年大遠忌慶賛
・落慶法要

墓地の一部移設について

墓地に関しては現状のままという計画でしたが、建築確認のため役所に相談したところ、東側の私道（建築法上の道路）の幅員の関係で、塀に密着した南寄りの5基の墓石を後退させるよう求められました。来年の竣

工検査時までには移設せざるを得ないことになったのです。また、水屋の解体工事に伴い、壁に密着した3基もしくはその一角を一時的に避難させる必要が出てきました。該当する方々のご相談して、最も良い方法を考えてまいりますので、よろしくご理解、ご協力をお願いします。



スクワーバ見樹院 1階平面図 (建物配置図)

大まかな配置図です。法的な指導や公庫融資の関係から、その後修正が加えられており、最新の計画図面とは若干異なります。

建設期間中の寺務・墓参について

今回の工事は、見樹院の建物全てを対象としており、建設期間中は、皆様にたいへんご不便をおかけすることになります。その間の対応につきまして、総代・世話人の方々とも相談をし、また、施工業者とも打ち合わせして検討しておりますが、現在のところ、以下のように考えております。

①本尊について

ご本尊及び須彌壇（しゅみだん）の仏像・荘厳は、住職が兼務する寿光院（江戸川区東小松川二一五―十二）の釈迦堂に安置します。

●寺務所と連絡について

仮設事務所については、建設業者と相談して、可能であれば設置しますが、スペース的に難しいければ、寺族（母親）の仮住まいと共に、近隣に部屋を借りる予定です。電話・ファックスは引き続き同じ番号で対応します。

●墓参について

通常通り可能ですが、現地に張り付いていられないと思われるので、花は持参していただき、火気の管理上、線香はご遠慮下ください。お彼岸やお盆などは、世話人やスタッフが当番制で対応することも検討しています。

●法事について

建築期間中に年回法要に当たる場合は、

- ① 日程（年）を前後にずらす。
 - ② 自宅か、墓前での法要にする。
 - ③ 供養の席で法要を行う。
 - ④ 本尊のある寿光院で行う。
- などの方法があります。住職にご相談ください。

●施餓鬼会・見樹会について

来年は、伝通院もしくは公共施設（文京シビックセンター）で法要と総会を考えています。

工事期間中は何かにつけご迷惑をおかけいたします。どうぞよろしくご理解の上、ご協力のほどお願い申し上げます。



SQUAVA
スクワバ

見樹院

世話人の村上哲夫さんのデザインによるスクワバ見樹院のロゴマークは、阿弥陀如来を表す梵字「キリク」をモチーフにしています。いのちの源である緑の森に支えられ、仏の心に包まれながら極楽(スクワバヴァティ)をめざし、みんなでコミュニティを築きあげる場を表しています。

要注意

お寺を騙った振込め詐欺が起きています

仏教会からの連絡によると、都内のある寺院のお檀家の方で、「参道を修理するので寄付を募ります。各家●万円をお願いします。振込先は・・・。」という内容の手紙が届く、という振込め詐欺が発生しているとのこと。まさかそんなバチ当たりな詐欺はないと思う以前に、自分の菩提寺からの手紙と思えば、何の疑いもなく払ってしまう人も多いのではないかと思います。

○五年を以て一応の募金期間を終了し、それ以降は当院からのお願いは致しておりません。また、他にも寄付を募るようなご連絡は一切しておりません。なお、当院の受付口座は、「東京三菱銀行 春日町支店 普通預金 0963557 口座名 見樹院建築基金 代表 大河内秀人」です。もしも方が一、これ以外の請求が当院の名前でありましたら、すぐに住職までご連絡下さい。

▽月刊誌『ソトコト』6月号で、見樹院の計画が紹介されました。

CLIP 3
ECO VILLAGE

東京・小石川で、お寺とつくる エコビレッジ建設が進行中!

Koishikawa eco village with Kenjuin.



「小石川エコビレッジ」の完成予想イラスト。左側がお寺、真ん中が外断熱・高強度コンクリートの長寿命マンション、右手は木造2階建ての様。

東 京都文京区小石川。お寺と学校が多いこの地域に、江戸時代から続く浄土宗の見樹院というお寺がある。そこで、今、エコビレッジの建設が進行しているという。

現地は、東京メトロの後楽園駅と茗荷谷駅のちょうど中間あたりの静かな住宅地。10分も歩けば後楽園や東京ドームがあるとは思えないほど、落ち着いた街並みだ。そこにある見樹院の敷地内に100年の定期借地権を設定し、土地所有者である見樹院と入居希望者が「建設組合」を設立して、一緒に住宅をつくる、それがコーポラティブ方式の「小石川エコビレッジ」だ。

「なにか新しい形で建て替えができないか」と考えていました。そんなとき、アンビエックスの天然住宅に出会い、その考え方に非常に共感しました。また、コミュニティづくりとセットになったエコビレッジという暮らし方は、昔、地域の中心として機能していたお寺の在り方ともつながります。

そう語るのはい見樹院の大河内秀人住職。予定されているエコビレッジは、お寺と住居部分に分かれ、集会場はお寺の法事にも、住民や地域の集会にも使えるようになるという。また、建物自体も健康と環境にこだわった「天然住宅」。日本の森林を守る事業と連携し、燻煙乾燥された国産無垢材をふんだんに使用、しかも化学物質フリーの健康住宅なのだ。

100年後をしっかりと見据え、地域の中での存在意味を考えて建てられる「小石川エコビレッジ」、まだ入居者募集中だ。




左/見樹院の大河内住職。右/こちらはエコビレッジの模型。屋上菜園も計画されている。

小石川エコビレッジ
問い合わせ: 都市住宅とまちづくり研究会
tel. 03-5207-6277 <http://www.tmk-web.com/>